

日本労働運動の缺陷は一言に要約するならば組織力と闘争力の不振にある。第一に六。労基に遇せざる程度に低き組織率尙も其の組織労働者が必要以上の政治的意見の相違や感情的利己的な幹部間の繩索主義や整理合同の努力の不足によつて幾多の組合に小く分割し其共同の斗争を阻害して居る事。第二に圧倒的多数の承認組織労働者の組織の明却と特に日本資本主義の組織とも言へば大産業に組織の進まざる点。第三に組織労働者の意識化訓練の不足。第四に個々の経済闘争を全般的な闘争に拡大発展し得ざる点。凡そ其等の日本労働運動の陥つたる実情であり、而して能力に克服せねばならぬ傾向である。

特に整調を要する一点は、左翼労働組合主義、右翼労働組合主義に依つて経済線戦を攪乱分裂せしめて居る事である。之等は組織の拡大の上にも闘争の勝敗の上にも從つて致命的な損失を與へる何物もない。

合法的な組織を以てすべて改良主義反動なりと断じ闘争の基礎を大衆との關係に置かず困難にして忍耐を要する組織闘争を明知してひたすら革命的言辭を唱へ焦燥的行動に終始する極左翼主義の害悪更に之等の模倣を以て戰鬥的戰士なりとして自を冠めたる一派等の行動の誤用は言ふまでも無いが労働階級の日常利害獲得の闘争と労働階級解放と新日本の建設運動に結びつけるを整理せず而してこれ等を労働階級の果敢なる実力闘争の過程に於て獲得せんとせし左翼は國家的基礎に立つ運動を以つて反動とし又対立する右翼は國家的運動は之が政府に遠隔する以つて能事とせる厄石の誤謬を排せねばならぬ。吾輩は当前の最大目標を労働階級に共通な利害の爲めの闘争を戦はんが爲めの既統一組織の拡大闘争力の充実に置かねばならぬ一切は実力の保持である。

其等の一般の闘争方針をより具体的に示すなら次の如くであらう。

一、経済戦線統一の必要を今日程強く感じて居る時わづかに前途の如く、國內的に國際的に危機に立てる資本主義の世界的努力が既にトラスド或はカレテルシオンチケート等の結成となつて急激な歩調をとつて進んで居る時、労働階級の陣營が數回に分割して居る事は言ふまでもなく不合理的である。日本の労働運動は今日尙然るが如く過去のそれの組織過程の混亂期であつたと言へるべきである。従つてその此自傳の確固たる指導精神の樹立の暇を與へるべきである。其の政治闘争にまざるものは、本来的な経済闘争を忘す其既戦線を守るものは政治闘争に理節を持たず爲めに分裂に次ぐに分裂を見るに至つたのであつた。今日